中央大学学員会白門化学クラブ支部

白門化学クラブ会報

第６号（平成 24 年度総会特集）

平成 24 年 10 月 31 日発行
中央大学学員会白門化学クラブ支部
〒112-8551
東京都文京区春日 1-13-27
中央大学理工学部応用化学科内
白門化学クラブ事務局
E-mail: hakumon-kagaku
@gakuinkai.com
URL:http://www.gakuinkai.com
/hakumon-kagaku/

白門化学クラブ支部の皆様へ

白門化学クラブ会報第６号を１ヶ月遅れでお届けします。

昨年に引き続いての猛暑を乗り切られ爽やかに紅葉の季節をお迎えのことと存じます。

3 年越しの総会も盛会に終了いたしましたことをここにご報告申し上げます。支部役員につきましては、ほぼ留任となり、これからの 2 年間を務めさせて頂きます。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

幕末から明治にかけ、教師として日本に滞在した米国の青年グリフィスは、著書「明治日本体験記」（山下英一訳）で、この国の風土についてこのように記述しています。

「この国の土地の基盤がぐらついている。日本には真の意味の不動産はありえない。というのは、誰にもわからないが、国全体がかつて出てきたもとの海にのみ込まれるかも知れないからである。地震は一月に平均二回以上起り、月が地球のまわりを一公転するうちに百回の地震があったことが知られている。この国の古い記録によると、多くの町や村が、海にのみ込まれ、都市や立派な城が倒された。恐ろしい地すべりや洪水を起こす豪雨は決して珍しくない。その上、沿岸の住民には海までも恐怖である。風や嵐が起って船が難破したり、人が溺れたりするだけでなく、津波がいつなんどき押し寄せてくるかも知れない。一年に一、二度、破壊力を示す恐ろしいものの最も恐ろしい台風がやってくると思わねばならない。」

私たち日本人はこの国土と取り巻く自然に巧みに対応し豊かな国を築いてきました。そして大きな試練には、人々は「和」と「絆」をもって一丸となり克服してきました。

世界中が混沌としている今年も残るところ２ヶ月、来る平成２５年が新たな私たちの発展の年となることを祈念してやみません。

支部長　堀中　新一

幹事長　近藤　明義

平成 25 年 3 月

会報第 7 号発行予定

宮城県石巻市立門脇小学校

―兒童は全員避難、校舎は津波と火災に見舞われる。

取り壊しが決定した。

門小ガッツ

僕らは負けない

第３１回総会、講演会並びに懇親会報告

昨年は東日本大震災で総会を延期したので２年ぶりの開催となった。平成２４年６月９日（土)、当日は梅雨入りして朝から雨であった。後楽園キャンパス正門の右側に 2 号館が完成し正面の坂を登ると旧 2 号館の跡はテニスコートになっていた。眼下には後楽園の美しい新緑の森とドームの白い屋根が見え、その美影に大都会のオアシスを感じた。

6 号館教室での総会に先立って行われた講演会の講師は、工業化学科卒の森下悟氏でテーマは、「環境汚染に挑む吸着技術」、吸着剤の一つであるゼオライトの機能を概説し、環境分野での研究と応用について解説していただいた。(→P.9)

支部総会は堀中新一支部長の開会の挨拶で始まり、近藤明義幹事長の司会で議長に池田正博氏を選出。平成２３年度活動報告、同決算報告（→P.6)、平成２４年度活動計画案、同予算案（→P.7)、役員人事案（→P.8）が審議され、満場一致で承認された。

懇親会は５号館食堂で開催、田澤和久幹事の司会で進められた。支部長の挨拶に続き、ご来賓の石井洋一理工学部長、安達富夫事務局長、吉田憲一学員会副会長・事務総長にご挨拶いただいた。乾杯の音頭は芳賀正明応用化学科主任教授にとっていただき、なごやかな雰囲気のなかで会も進み久しぶりの再会に話が弾んだ。中締めは柳奥茂樹幹事が行い、池田正博氏の音頭で校歌、惜別の歌を斉唱して散会した。　　（幹事　林　正道）

第 31 回（平成 24 年度）総会出席者

ご来賓

中央大学理工学部長	石井洋一先生
中央大学理工学部応用化学科主任教授	芳賀正明先生
中央大学事務局長	安達富夫様
中央大学学員会副会長･事務総長	吉田 憲一様
中大技術士会支部幹事長	林 知幸様

会員（敬称略）

第 1回 昭和28年卒(1953) 牧 吉雄
第 5回 昭和32年卒(1957) 金寿幸男
第 7回 昭和34年卒(1959) 栗原 功 八田幹雄
第 8回 昭和35年卒(1960) 橋澤 晃 江本房利
第 9回 昭和36年卒(1961) 永井 仁
第10回 昭和37年卒(1962) 堀中新一
第11回 昭和38年卒(1963) 池田正博 滝沢孝一 斎藤好雄 鳥居政雄
若松孝昌 大石愛祐 森下 悟 岩代尚史 松永勝治
第13回 昭和40年卒(1965) 近藤明義
第15回 昭和42年卒(1967) 根津達郎 大嶋久義 井手俊二
第16回 昭和43年卒(1968) 林 正道 峯岸修三
第19回 昭和46年卒(1971) 清田雅史
第25回 昭和52年卒(1977) 柳奥茂樹 佐藤 博 佐々木利夫 山崎基史
鳴海 聡 加藤真也 森田勝己 甲斐久也
第27回 昭和54年卒(1979) 川見達彦
第29回 昭和56年卒(1981) 田澤和久
第32回 昭和59年卒(1984) 瀬戸昌成
第35回 昭和62年卒(1987) 住吉宏明

平成23年度活動報告（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

1. 白門化学クラブ会報第4号、第5号の発行

白門化学クラブ会報第 4 号は,平成22年度総会が中止となったことによる報告事項等を掲載して、9 月末に発行しました。（250通発送） 第5号は平成 24 年度総会（6月開催）の案内とし、総会出欠通知葉書を同封し、平成24年4月初旬に発送しました。（250通発送）

2. 支部ホームページの開設と運用

平成23年 10 月 10 日より中央大学学員会サイトにリンクし運用を開始しました。当初、学員会ホームページ作成の助成基準をクリアーするページのみでスタートし、逐次、内容の充実を図ります。現在は、会報第1号～第5号（会計報告等を削除）をアップしています。

3. 平成 24 年度総会準備

平成24年6月9日（土）、中央大学後楽園キャンパスでの開催として準備を進めました。従来同様、講演会・総会・懇親会という構成としました。

4. 東日本大震災関連支援事業への協力

中央大学学員会の要請により、東日本大震災義援金、東日本大震災奨学金 学生ボランティア支援基金に対して募金を行いました。

平成24年度活動計画（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

1. 平成 24 年度総会の開催（6月 9 日（土）実施）

2. 白門化学クラブ会報第6号、第7号の発行

会報第6号は,平成24年度総会特集として8月末に、第7号は平成 25年度総会（春季開催）の案内とし、総会出欠通知葉書を同封し、平成25年3 月に発行します。（250通作成予定）

3. 支部ホームページの運用と改善

会員のインターネット使用者が増加してきているので、会員専用の通信、交流手段として活用出来るようホームページ構成の改良を行います。

4. 平成 25年度総会準備

平成25年春季の開催として準備を進めます。従来同様、講演会・総会・懇親会という構成とします。

5. 中央大学学員会、支部活動への参加

徐々に学員会行事参加、他支部との交流を進めることとします。

6. 新学員への PR

具体的な方策は学員会事務局との相談によることとします。平成24年度卒業生の年次支部発足会に参加し、「白門化学クラブ」を PR します。

白門化学クラブ支部役員

（任期　平成 24 年度総会～平成 26 年度総会）

幹　事

秋山　堯	再	昭和 34 年卒（第 7 回）
堀中　新一	再	昭和 37 年卒（第 10 回）
近藤　明義	再	昭和 40 年卒（第 13 回）
根津　達郎	新	昭和 42 年卒（第 15 回）
林　　正道	再	昭和 43 年卒（第 16 回）
柳奥　茂樹	再	昭和 52 年卒（第 25 回）
田澤　和久	再	昭和 56 年卒（第 29 回）
瀬戸　晶成	再	昭和 59 年卒（第 32 回）
住吉　宏明	再	昭和 62 年卒（第 35 回）

会　計

大嶋　久義	再	昭和 42 年卒（第 15 回）

会計監査

滝沢　孝一	再	昭和 38 年卒（第 11 回）
峯岸　修三	再	昭和 43 年卒（第 16 回）

顧　問

中田　常雄	最高顧問	昭和 28 年卒（第 1 回）
牧　　吉雄		昭和 28 年卒（第 1 回）
栗原　功		昭和 34 年卒（第 7 回）

＊総会にて、幹事、会計に各 1 名の補充枠をご承認頂きました。

人の動き

訃　報（ご冥福をお祈り申し上げます）

川田龍之助氏（第 1 回昭和 28 年卒）

佐藤信昭氏（第 2 回昭和 29 年卒）

末次　稔氏（第 5 回昭和 32 年卒）

角田正信氏（第 6 回昭和 33 年卒）

清水康光氏（第 8 回昭和 35 年卒）平成 24 年 6 月 3 日逝去

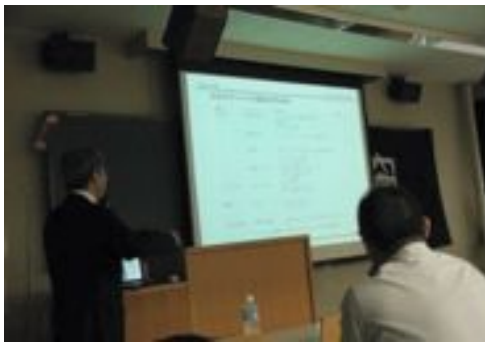
講演（白門化学クラブ支部総会）

「環境汚染に挑む吸着技術」

森下　悟（第 11 回昭和３８年卒）

［経歴］ 現・東ソー（株）に入社、ゼオライトの合成・プロセス開発研究に続き、製造設備建設に携わりプラントを立ち上げた。さらにＰＳＡ酸素分離用や分解ナフサ用ゼオライト等々のグレード開発、新用途開発を行うと共に、製造責任者として増設を重ねた。この間、東ソーゼオール（子会社）を設立し、ハニカムゼオライトによるガス浄化設備の技術営業を担当。

［講義概要］ 地球レベルでの希薄化学物質による大気、水、土壌など生物生存のための環境汚染が問題となっている。化学物質の分離・精製技術として、吸着剤による吸着・濃縮が研究されてきた。
ここでは、吸着剤の一つであるゼオライトを取り上げ、吸着、イオン交換、触媒性能などその機能を概説し、大気、水など環境分野での研究と応用について解説する。



[講演を終えて] 先の平成 24 年度白門化学クラブ総会の折、「環境汚染に挑む吸着技術」と題して、講演させていただきました。当初は、私ごときが良いのだろうかと思いましたが、私の生涯の仕事であるゼオライトを多くの方に知っていただきたくお引き受け致しました次第です。会場では、多くの諸先輩、同期の仲間、後輩諸氏に熱心に聴いていただき感激するとともに、このように温かく迎えてくれる同窓とはまことに有り難きものとつくづく思いました。

末筆ながら、この場をお借りして、設備を準備いただいた大石克嘉先生、会を設定していただいた堀中新一支部長はじめ幹事の皆様に深く感謝申し上げます。誠に有難うございました。同時に、白門化学クラブの益々の発展をお祈りいたします。

会員寄稿

「齢・重ねて思うこと」

金寿幸男（第５回昭和 32 年卒　神奈川県鎌倉市在住）

卒業後五十五年、退職後十三年になり現在無職です。思うに現在の日本国民は国の教育制度のシステムに組み込まれ、小中高・大学を経て社会人となるのが多くの人の通る道筋です。それぞれの段階は次の段階への準備の期間でもあります。それぞれのステージを如何に過ごすかは此れ又各人各様ですが現役での役割を果たし解放されて多くの人は無職になります。その後は一般論として通るコースは次の三つになるでしょう。（一）生涯現役の人。（二）ボランティア活動に取り組み世の中のために活動される人。（三）趣味に生きる人。私の場合は（三）の範囲に該当します。現役時代に出来た人との繋がりで（１）旅行の仲間。（２）釣りの仲間。（３）ゴルフの仲間。これらの行事への参加でカレンダーも結構埋っています。

（１） 旅行の仲間は五十年の歴史を持つグループで私も四十年程前に入会を認められ加入致しました年間行事は新年会に始まり、春の小旅行（１泊)、夏の暑気払い、秋の大旅行（３泊)、忘年会と五つの定例行事とその事前打ち合わせ等で年間十～十二回程顔を合わせます。此処で学んだ事は、若いときは海外へ、初老の頃は国内遠隔地へ、最後は近くにと、自然の素晴らしいところと千年の歴史を持つところを巡るということです。お蔭で全国津々浦々訪ねることができました。

（２） 釣りの仲間で船を所有している人があり、トローリングでマグロ、カツオ、ブリなどを追いかけましたが年老いてからは東京湾、相模湾で旬の小物釣りを楽しんでいます。

（３） ゴルフの仲間　私のゴルフ歴は五十年になります。そして、いくつかの仲間があります。ホームコースの例会、ホームコースのプライベートグループ A・B、旧会社の OB 会グループ、旧会社時代の近隣企業の OB たちとのグループ、大学の仲間三二会、六回生、八回生、学員会と数多くのグループに加入し、沢山の仲間と青空の下、緑の芝生を楽しく散歩することが大変健康にプラスの様です。

これらはすべて費用持ち出しですが日本の GDP に少なからず寄与しているでしょう。病気になり医者通いで GDP にプラスするよりは少しはましかなと自負しています。

最後に申し上げたいことは人間健康が第一ということです。健康でなければ無職時代のすべての事が実行できなくなります。結びに白門化学クラブを利用して先輩同期後輩の方々と繋がりを大切に化学クラブテクノサロンと考えて積極的に参加し利用されん事を期待し擱筆いたします。

会員寄稿

卒業してから５４年、今思うこと

野口　茂（第 7 回昭和 34 年卒　神奈川県横浜市在住）
㈱オスモ　代表取締役会長

昭和３４年に無事卒業して早くも５４年がたちました。卒業後水処理メーカーであるオルガノ㈱に入社し２３年間、設計、規格、商品開発など自分のやりたい仕事に従事できたことは、非常に感謝するとともに独立へのきっかけになりました。

その後昭和５６年、自分で開発した商品を中心にオルガノ㈱の販売店として独立しました。

初めは私と妻との二人で、営業経験のない私にとっては本当に悪戦苦闘の毎日でした。
妻も子供３人抱えながらも、経理を担当してくれたので、私は現場の仕事に打ち込むことができました。実際に机上での設計と現場での仕事との差があり、時々気分的に落ち込んだことが、今懐かしく思います。

創業当時は小型純水器の販売およびメンテナンスを中心に営業しておりましたが、お客様から多種の水への要望に応えられるように中型ろ過装置、純水装置の製造販売へと市場を拡大してきました。

最近では、お客様の環境についての関心が高まり、純水装置だけでなく各種の排水リサイクルシステム、非常用飲料水装置などを製造販売しております。

特に忘れてはならない平成２３年３月１１日の東日本大震災における被災地では、飲料水の確保が困難となり、急遽非常用飲料水装置を東北地方に設置し、飲料水の提供に貢献し地域の皆様に喜ばれました。

会社を創業してから、今日まで多くの人達に協力してもらい又、応援して頂いた事により現在の㈱オスモがあるのだと常に感謝しています。

４年前に長男に会社を譲り、私は会長になりましたが、昔からの習慣から抜けず現在も現役として忙しく商品開発などに専念しております。

川崎市の産業振興財団の人達、そして大学の先生方からも色々と話が持ち込まれ、それに応えようと無い知恵を絞っている毎日です。

１０月には７６歳になります。知人からいつまでも仕事をするのではなく、後は長男に任せて自由に遊べと言われていますが、貧乏暇なし、健康で社員と議論しながらいつまでも好きな仕事が出来、仕事を通じて人間の暖かさを分かちあえるのも、人生の生き方ではないかと感じております。人生は短いがゆえに、自分の好きな事を、好きなように生きていければと常日頃感じています。

仕事をすることにより頭、体を使いその為に健康を維持することが出来るのです。

会員の皆様もお元気で長生きしましょう。

会員寄稿

総会に出席して

江本房利　（第８回昭和 35 年卒　さいたま市在住）

耳を悪くして以来総会には欠席を決め込んでおりましたが、今回は中田先生からのお誘いもあり久し振りに参加させていただきました。

まずキャンパスに足を踏み入れて驚いたのは、立派な２号館が完成し校門を入った時の風景が一変していた事です。それだけ総会にもご無沙汰していたことの表れでした。

今回の講演は、折しも福島第一原発で放射能汚染水の浄化で活躍している「ゼオライト」に関するものであったので、格別の関心を持って聞かせて頂きました。単に放射能汚染水の浄化だけでなく、浄化目的物質に応じた種々のゼオライトが開発され幅広く利用されている事など新たな知見を得ることができました。

余談になりますが、わたくしの住まいする周辺には今も広々とした田んぼがありそのための用水路もあります。転居して来た当時（１９７３年頃)、この用水路にはフナ、ドジョウ、ザリガニなど沢山生息しており、夜にはホタルも観賞出来ておりました。しかし１０年を経ずしてこれらの生物が全く見られなくなりました。この事実は農薬や化学肥料が主要因だろう、とわたしなりに分析しております。いまこの田んぼでは時折、やせ細った白鷺が餌を探している姿を見かけますが、オタマジャクシも居ない田んぼで何を食っているのだろうと思いつつ、やがてこの白鷺の姿も見られなくなるだろうと
悲観的な観察をしているところです。

化学を専攻した者としてその恩恵に浴する一方で、あらゆる種類の化学物質が人間を含む生物環境に多大な汚染をまき散らしている事を憂慮している一人です。このたびの総会に参加し、講師を勤められた森下様をはじめ多くの方々が環境浄化のための素材開発に取り組んでおられ、且つまた学会等でも環境対策への取り組みがなされている事の認識を新たにすると同時に心強くも思っております。

総会の議事は解り易く簡潔でしたし、懇親会では新たにお顔とお名前が一致する出会いもあり、なごやかに過ごすことができました。

総会に出ていつも喜ばしく思うのは、各分野で同窓生が活躍しておられる様子が窺われる事です。支部長様、幹事の皆様のお骨折りに負うところが大きいのですが、今後も情報交換や交流の場として益々発展して欲しいと願っております。ためには、われわれ会員各位も後輩達と接する機会があったら当クラブへの参加を呼びかけ、より若い世代にも大勢参加して貰えるようにして行けたらと思う次第です。

惜別

清水康光さんを偲んで

橋澤　晃（第８回昭和 35 年卒　千葉県佐倉市在住）

白門化学クラブに当初より入会し、その動向に関心を持ち会の運営に協力的であり総会に参加を楽しみにしていた清水君が、今年は（6 月 9 日）参加できないことを知ったのは、当日清水君と同じ会社で仕事を共にされた近藤さんから「調子が思わしくなく欠席」との連絡があったと聞かされた時でした。数日後、突然 6 月 3 日に薬石効なく旅立れたとのご遺族からの報に接し、親友との別れの悲しさと無念さが一杯になりました。

清水君との付き合いは、第 8 回生として入学以来半世紀以上になりますが、彼の卒論は珪酸塩研究室（安藤先生）であり、その後商社に入社されました。小生は染料研究室（安倍先生）で、メーカーに入社したので卒業後しばらくは比較的接点が少なく過ごしました。

親しく付き合う様になったのは、同期が定年を迎える頃から、懇親会、ゴルフ会、海外旅行会等の交流の場が増え顔を合わせる機会が多くなってからです。

特に清水君と一層の親密さを増したのは、白門化学クラブに勧誘してくれたからであると思います。幾度か総会に同席し彼の振舞いを見ると、中田先生への敬愛の念は格別でしたが、自分の立ち位置を見定め生来の人懐っこさで多くの皆さんと明るく談笑し、表裏なく交流される姿に感服しました。彼のこの行動パターンは同期の会でも全く変わることが有りません。

今年 4 月末、彼が出席した最後の同期の懇親会では、今から思うと自身が最期を知っているのではないかと思えるような、皆に対する心遣いで、普段以上に明るく談笑していた姿が印象的でした。この席で小生に対し「自身の一生をゆっくり生き続けなさい」と話してくれたのが最後の言葉であり、永遠の別れとなりました。

彼は数年前から癌に侵されていることを知りながら病魔と向かい合い、明るく笑顔で皆との付き合いを大事にし、大好きな仕事も最後まで全うされ誠に立派な人生でした。

もう貴方の得意の少しリズムを外したカラオケを聞く事はできません。無念です。しかしカラオケの話題には必ず貴方が登場することは間違いありません。

清水君、永い間楽しくお付き合いいただき有難う御在居ました。

ご冥福をお祈り致します。（平成 24 年 9 月 13 日記）

◆ 学員のみなさまへ ご協力のお願い ◆

大学史編纂課では、現在、中央大学の歴史に関わる資料を収集しています。

◇卒業証書、賞状、講義録、教科書、筆記ノート、学生証、各種手数料納付書等
◇各記念式典の記念品・パンフレット、白門祭や体育祭の記念品・パンフレット等
◇サークルや学員会支部の会誌・記念刊行物、ユニフォーム、バッチ、バックル等
◇卒業記念写真・アルバム、学生時代や学員会支部等での集合写真等

上記のほか、お気づきの資料等がございましたら、お知らせくださいますようお願い申し上げます。

問い合わせ・連絡先　〒192-0393　東京都八王子市東中野 742-1
中央大学入学センター事務部大学史編纂課
TEL 042-674-2132, 2133　FAX 042-674-2203

平成２５年は、第１回卒業の先輩の卒業６０周年となります。
後楽園校舎、水道橋校舎、春日運動場は遠い昔となってしまいました。
写真を残しましょう。

編集後記

発行遅れは猛暑の影響（？）と弁解させて下さい。

第５号で予告の通り、東京ドームホテル４３階からの、東京ドーム球場越しの後楽園キャンパスの俯瞰写真を表紙としました。第４号の写真と見比べてみて下さい。旧２号館の場所がぽっかりと空いています。そこからドーム方向を見渡すと、こんなに空が広かったのかと感じます。この大東京の街中の小さな島から、世界に羽ばたく後